2-347-711-**04**(1)

# ワイヤレス<br>マイクロホンシステム

## 取扱説明書

**お買い上げいただきありがとうございます。**

⚠警告 電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示してあります。この取扱説明書をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

**ご注意**

本システムの送信機は、電波法第4条、電波法施行規則第6条により、技術基準適合証明を受けております。技術基準適合証明ラベルをはがしたり、本機の内部を改造して使用したりすることは、電波法で禁じられています。

# UWP-C1/C2<br>UWP-X1/X2

# 安全のために

ソニー製品は安全に十分に配慮して設計されています。しかし、電気製品はまちがった使いかたをすると、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあり、危険です。
事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

## 安全のための注意事項を守る

4～6ページの注意事項をよくお読みください。

## 定期点検を実施する

5年に1度くらいは内部の点検について、お買い上げ店またはソニーの業務用製品ご相談窓口にご相談ください。

## 故障したら使用を中止する

お買い上げ店またはソニーの業務用製品ご相談窓口にご連絡ください。

## 万一、異常が起きたら

- **異常な音、におい、煙が出たら**
- **落としたら**

❶ 電源を切る。
❷ バッテリーまたは外部電源ケーブル、およびすべての接続ケーブルを抜く。

**炎が出たら**

→ ❸ お買い上げ店またはソニーの業務用製品ご相談窓口に修理を依頼する。

**警告表示の意味**

この取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

**⚠警告**

この表示の注意事項を守らないと、火災や感電などにより死亡や大けがなど人身事故につながることがあります。

**⚠注意**

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の物品に損害を与えたりすることがあります。

**注意を促す記号**

**行為を禁止する記号**

**行為を指示する記号**

# 目次

警告  


**下記の注意を守らないと、火災や感電により死亡や大けががにつながることがあります。**

## 内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災の原因となることがあります。
万一、水や異物が入ったときは、すぐに電源を切り、バッテリーまたは外部電源ケーブルや接続ケーブルを抜いて、お買い上げ店またはソニーの業務用製品ご相談窓口にご相談ください。

## 指定の電圧および極性で使用する

規定外の電圧および極性で使用すると、火災の原因となることがあります。
この取扱説明書に記されている電圧および極性で使用してください（20～21ページ参照）。

## 外部電源ケーブルを傷つけない

外部電源ケーブルを傷つけると、火災や感電の原因となります。
- 外部電源ケーブルを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけたり、加熱したりしない。
- 外部電源ケーブルを抜くときは、必ずコネクターを持って抜く。

万一、外部電源ケーブルが傷んだら、ソニーの業務用製品ご相談窓口に交換をご依頼ください。

## 油煙、湯気、湿気、ほこりの多い場所では設置・使用しない

上記のような場所およびパワーアンプなど発熱体の近くで設置・使用すると、火災や感電の原因となることがあります。

## ⚠注意　下記の注意を守らないと、けがをしたり周辺の物品に損害を与えることがあります。

### 外装を外さない、改造しない

外装を外したり、改造したりすると、感電やけがの原因となることがあります。

内部の点検や修理は、お買い上げ店またはソニーの業務用製品ご相談窓口にご依頼ください。

### 電源のON/OFF時には、接続した機器の入力を絞る

電源のON/OFF時には大きな雑音が発生し、接続した機器あるいはスピーカーなどに損害を与えることがあります。

### 受信待機時には、接続した機器の入力を絞る

受信待機時やRFレベルが小さくなったときは、大きな雑音が発生し、接続した機器あるいはスピーカーなどに損害を与えることがあります。

# 電池についての安全上のご注意

ここでは、本機で使用可能な乾電池についての注意事項を記載しています。

## ⚠警告

- 機器の表示にあわせて⊕と⊖を正しく入れる。
- 充電しない。
- 火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱しない。
- コイン、キー、ネックレスなどの金属類と一緒に携帯、保管しない。
- 水などで濡らさない。風呂場などの湿気の多い場所で使用しない。
- 液漏れした電池を使用しない。
- 電池を使い切ったときや、長時間使用しないときは本体から取り出す。

## ⚠注意

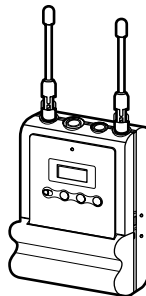
- 外装のチューブをはがしたり、傷つけない。
- 指定された種類の電池以外は使用しない。
- 火のそばや直射日光が当たるところ、炎天下の車中など、高温の場所で使用、保管、放置しない。

# 商品の構成

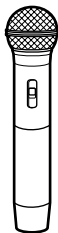
この取扱説明書は、ワイヤレスマイクロホンパッケージUWP-C1/C2/X1/X2に共通です。各パッケージの商品構成は次の通りです。

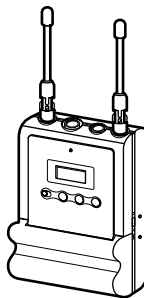
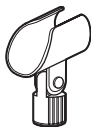
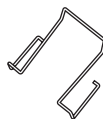
## UWP-C1

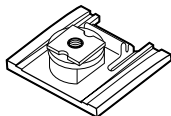
ボディーパックトランスミッター（送信機：UTX-B1）とポータブルダイバーシティーチューナー（受信機：URX-P1）のセットです。小型カムコーダーとの組み合わせにより、ENG、EFPアプリケーションにおいて機動性のあるシステムを構築することができます。

# 商品の構成

## UWP-C2

ハンドヘルドマイクロホン（送信機：UTX-H1）とポータブルダイバーシティーチューナー（受信機：URX-P1）のセットです。小型カムコーダーとの組み合わせにより、ENG、EFPアプリケーションにおいて機動性のあるシステムを構築することができます。

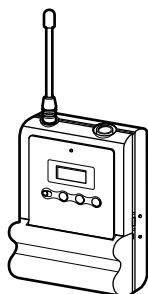
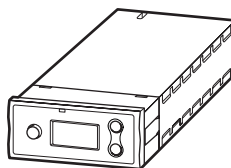
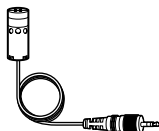
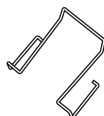
**ハンドヘルドマイクロホン（UTX-H1）（1）**

**ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P1）（1）**

### 付属品

- マイクホルダー（1）

- シューマウントアダプター（1）

- マイクスタンドアダプター（1）

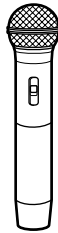
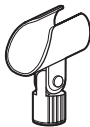
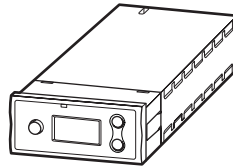
- ベルトクリップ（1）

- XLR-BMP変換ケーブル（1）
- ステレオミニ-BMP変換ケーブル（1）
- 取扱説明書（1）

## UWP-X1

ボディーパックトランスミッター（送信機：UTX-B1）とダイバーシティーチューナーモジュール（受信機：URX-M1）のセットです。チューナーモジュールをチューナーベースユニットやパワードミキサーに組み込むことにより、目的の用途、規模に合わせたシステムの構築が可能です。

# 商品の構成

## UWP-X2

ハンドヘルドマイクロホン（送信機：UTX-H1）とダイバーシティーチューナーモジュール（受信機：URX-M1）のセットです。チューナーモジュールをチューナーベースユニットやパワードミキサーに組み込むことにより、目的の用途、規模に合わせたシステムの構築が可能です。

# 特長

ワイヤレスマイクロホンパッケージUWP-C1/C2/X1/X2（UWPシリーズ）は、送信機（ボディーパックトランスミッター（UTX-B1）またはハンドヘルドマイクロホン（UTX-H1））と受信機（ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P1）またはダイバーシティーチューナーモジュール（URX-M1））各1点ずつの組み合わせです。
小型カムコーダーと組み合わせてENG（Electric News Gathering）に、またはパワードミキサーなどと組み合わせてAVプレゼンテーションや小規模なPAシステムに使用できます。

**ご注意**

UWPシリーズは、従来のトランスミッター（WRTシリーズ）、チューナー（WRRシリーズ）、チューナーユニット（WRUシリーズ）との互換性はありません。

各パッケージの特長は次の通りです。

## UWP-C1

### ボディーパックトランスミッター（送信機：UTX-B1）

水晶制御PLLシンセサイザー方式を採用した小型かつ軽量なトランスミッターです。送信出力は、10 mW/2 mWの切り換えが可能です。

### ポータブルダイバーシティーチューナー（受信機：URX-P1）

ドロップアウトの少ないスペースダイバーシティー方式を採用し、角度可変型アンテナを装備しています。小型カムコーダー（DSR-PD170、HDV-Z1など）に取り付けるためのアダプターが付属しています。

## UWP-C2

### ハンドヘルドマイクロホン（送信機：UTX-H1）

単一指向性ダイナミックマイクロホンユニットを搭載したワイヤレスマイクロホンです。アンテナは内蔵型です。送信出力は、10 mW/2 mWの切り換えが可能です。

### ポータブルダイバーシティーチューナー（受信機：URX-P1）

ドロップアウトの少ないスペースダイバーシティー方式を採用し、角度可変型アンテナを装備しています。小型カムコーダー（DSR-PD170、HDV-Z1など）に取り付けるためのアダプターが付属しています。

## UWP-X1

### ボディーパックトランスミッター（送信機：UTX-B1）

水晶制御PLLシンセサイザー方式を採用した小型かつ軽量なトランスミッターです。送信出力は、10 mW/2 mWの切り換えが可能です。

### ダイバーシティーチューナーモジュール（受信機：URX-M1）

チューナーベースユニットMB-806やパワードミキサーSRP-X700Pなどに組み込んで使用するチューナーモジュールです。

## UWP-X2

### ハンドヘルドマイクロホン（送信機：UTX-H1）

単一指向性ダイナミックマイクロホンユニットを搭載したワイヤレスマイクロホンです。アンテナは内蔵型です。送信出力は、10 mW/2 mWの切り換えが可能です。

### ダイバーシティーチューナーモジュール（受信機：URX-M1）

チューナーベースユニットMB-806やパワードミキサーSRP-X700Pなどに組み込んで使用するチューナーモジュールです。

# 本機の性能を維持するために

- UWPシリーズの機器は周囲温度0℃～40℃の範囲で使用してください。
- UWPシリーズの機器を電力機器（回転機、変圧機、調光器など）に近接して使用すると、磁気誘導を受けることがありますので、できるだけ離して使用してください。
- 電飾などの照明器具により、かなり広範囲の周波数帯域にわたり電波が発生し、妨害を受けることがあります。この場合、受信機のアンテナの位置や送信機の使用位置により妨害が増減しますので、なるべく妨害を受けない位置で使用してください。
- UWPシリーズの機器を騒音の多い場所で使用すると、振動が直接本体に伝わり、雑音発生（マイクロホニック）の原因となり、規定のS/Nを満足しない場合があります。影響を受けると考えられるものには次のようなものがありますので、充分に注意してください。
  - — 回転機、変圧器などの付近
  - — 空調機器より発生する騒音、または風を直接受ける場合
  - — PA（Public Address）システムのスピーカー付近
  - — スタジオなどに設置していて、スタジオの機器をぶつけたり、たたいたり、物を落としたりした場合

  対策として、影響を受ける条件からできるだけ離す、緩衝材を敷くなどしてください。
- 表面や端子部の汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。シンナーやベンジン、アルコールなどの薬品類は、表面の仕上げを傷めますので使用しないでください。

**電波干渉を防ぐために**

使用時に外来雑音や妨害電波などの影響で雑音が発生し、使用できないチャンネルが生じることがあります。このような場合は、電波干渉を防ぐために電波の発射を停止する（電源を切る）か、あるいは周波数の変更（チャンネルの切り換え）を行ってください。

**携帯通信機器による電磁波障害を防止するために**

携帯電話などの通信機器を本機の近くで使用すると、誤動作を引き起こしたり、音声に影響を与えることがあります。本機の近くでは、携帯通信機器の電源はできるだけ切ってください。

# 使用チャンネルの選択

UWPシリーズは、B型帯域30チャンネルのうち、任意に選択したチャンネルを使用できます。
UWPシリーズを同時に複数使用する場合、混信を起こさないチャンネルの組み合わせが豊富に用意されています。
はじめに受信機のグループを指定し（00グループ以外）、プログラムされているチャンネルを設定することにより、多チャンネル同時運用が容易に行えます。送信機の送信チャンネルを、受信機の受信チャンネルと同じチャンネルに設定してご使用ください。

## チャンネルプラン

**• B型標準チャンネルプラン表**

| チャンネル | 周波数（MHz） |
|---|---|
| B-11 | 806.125 |
| B-12 | 806.375 |
| B-13 | 807.125 |
| B-14 | 807.750 |
| B-15 | 809.000 |
| B-16 | 809.500 |
| B-21 | 806.250 |
| B-22 | 806.500 |
| B-23 | 807.000 |
| B-24 | 807.875 |
| B-25 | 808.500 |
| B-26 | 808.875 |
| B-31 | 806.625 |
| B-32 | 806.875 |
| B-33 | 807.375 |
| B-34 | 808.250 |
| B-35 | 808.625 |
| B-36 | 809.250 |
| B-41 | 806.750 |
| B-42 | 807.500 |
| B-43 | 808.000 |
| B-44 | 809.125 |
| B-45 | 809.375 |
| B-46 | 809.750 |
| B-51 | 807.625 |
| B-52 | 808.125 |
| B-53 | 808.375 |
| B-54 | 808.750 |
| B-55 | 809.625 |
| B-61 | 807.250 |

**• 受信機内蔵チャンネルプラン表**

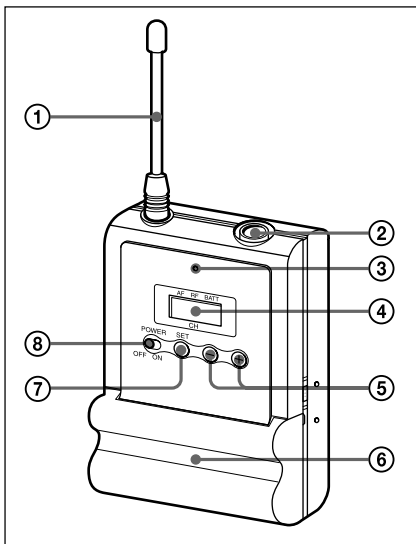
| グループ名 | B-1 | B-2 | B-3 | B-4 | B-5 | B-6 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| チャンネル名 | B-11 | B-21 | B-31 | B-41 | B-51 | B-61 |
| | B-12 | B-22 | B-32 | B-42 | B-52 | |
| | B-13 | B-23 | B-33 | B-43 | B-53 | |
| | B-14 | B-24 | B-34 | B-44 | B-54 | |
| | B-15 | B-25 | B-35 | B-45 | B-55 | |
| | B-16 | B-26 | B-36 | B-46 | | |

さらに、上記のチャンネルプラン以外に7チャンネル同時運用のためのソニーオリジナルチャンネルプランが2つあります（下表）。

| グループ名 | B-7 | B-8 |
|---|---|---|
| チャンネル名 | B-11 | B-21 |
| | B-12 | B-31 |
| | B-33 | B-13 |
| | B-52 | B-14 |
| | B-54 | B-25 |
| | B-36 | B-16 |
| | B-55 | B-46 |

# 各部の名称と働き

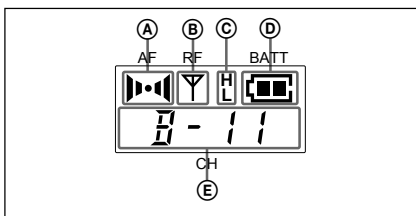
## ボディーパックトランスミッター（送信機：UTX-B1）

❶ **アンテナ**

❷ **音声入力端子**

付属のラベリアマイクロホンを接続します。

❸ **パワーインジケーター**

本機の電源がONになっているとき赤く点灯します。

❹ **ディスプレイ部**

Ⓐ **AF（音声入力）インジケーター**

基準レベル以上の音声信号が入力されると点灯します。

Ⓑ **RF（アンテナ出力）インジケーター**

アンテナから信号を送信しているときに点灯します。

Ⓒ **RF（アンテナ出力）レベルインジケーター**

アンテナ出力のレベルを表示します。

◆ 詳しくは「アンテナ出力のレベルを設定する」（31ページ）をご覧ください。

Ⓓ **BATT（バッテリー残量）インジケーター**

乾電池の残量を表示します。

◆ 詳しくは「乾電池残量の表示」（21ページ）をご覧ください。

Ⓔ **CH（チャンネル）インジケーター**

送信チャンネルの番号を表示します。SETボタンを押すたびに、表示は送信チャンネルの番号、送信周波数、音声入力のアッテネーターレベル、電池使用時間の順に切り替わります。

◆ 詳しくは「設定」（27ページ）をご覧ください。

**❺ ＋／－（設定値の増／減および電池の使用積算時間表示リセット）ボタン**

＋または－ボタンを押して、ディスプレイ部に希望の設定値を表示させます。
電池の使用時間を表示している場合は、－ボタンを押すと、表示が「00：00」に戻ります。

**❻ 電池ケース**

単三型アルカリ乾電池2本を入れます。
◆ 電池の入れかたについて詳しくは、「電源」(20ページ) をご覧ください。

**❼ SET（設定）ボタン**

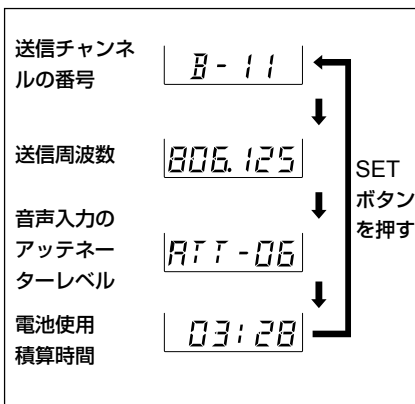
このボタンを押して、ディスプレイ部の表示内容や、設定する項目を変更します。
◆ 詳しくは、「設定」(27ページ) をご覧ください。

**❽ POWER（電源）スイッチ**

本機の電源をON/OFFします。

## ハンドヘルドマイクロホン（送信機：UTX-H1）

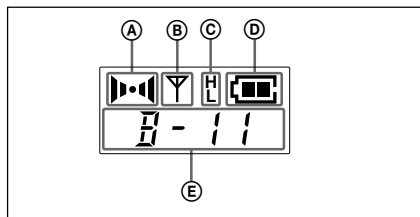
**❶ パワーインジケーター**

電源が入ると赤く点灯します。

**❷ パワースイッチ**

本機の電源をON/OFFします。

**❸ 電池ケース**

単三型アルカリ乾電池2本を入れます。
◆ 電池の入れかたについて詳しくは、「電源」(20ページ) をご覧ください。

**❹ ディスプレイ部**

**Ⓐ AF（音声入力）表示**

基準レベル以上の音声信号が入力されると点灯します。

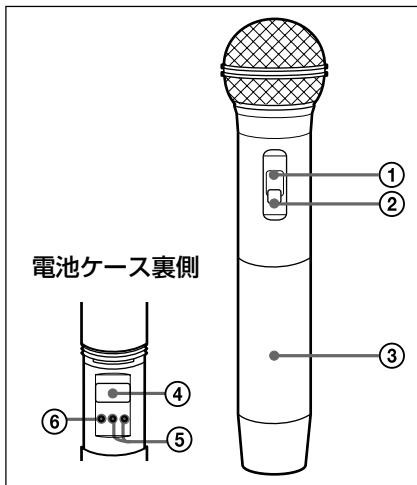
**Ⓑ RF（アンテナ出力）表示**

アンテナから信号を送信しているときに点灯します。

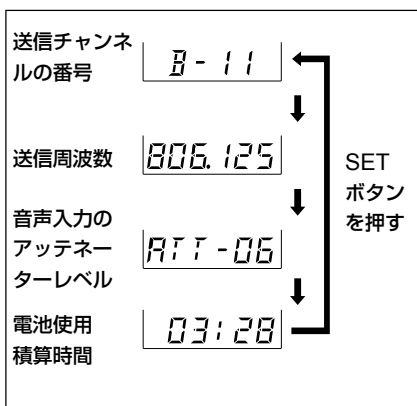
**Ⓒ RF（アンテナ出力）レベル表示**

アンテナ出力のレベルを表示します。
◆ 詳しくは「アンテナ出力のレベルを設定する」(31ページ) をご覧ください。

**Ⓓ BATT（バッテリー残量）表示**

乾電池の残量を表示します。
◆ 詳しくは「乾電池残量の表示」(21ページ)をご覧ください。

Ⓔ CH（チャンネル）表示

送信チャンネルの番号を表示します。SETボタンを押すたびに、表示は送信チャンネルの番号、送信周波数、音声入力のアッテネーターレベル、電池使用時間の順に切り替わります。

◆ 詳しくは「設定」（27ページ）をご覧ください。

❺ ＋／－（設定値の増／減および電池の使用積算時間表示リセット）ボタン

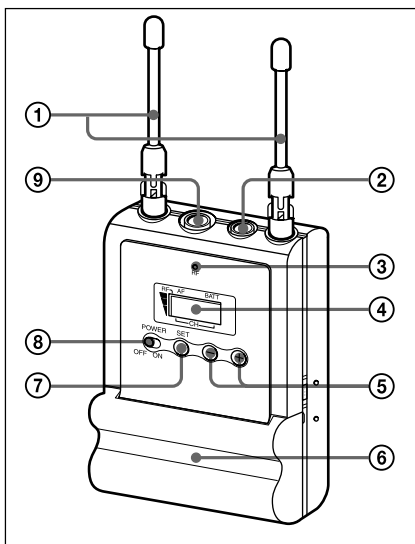
＋または－ボタンを押して、ディスプレイ部に希望の設定値を表示させます。

電池の使用時間を表示している場合は、－ボタンを押すと、表示が「00：00」に戻ります。

❻ SET（設定）ボタン

このボタンを押して、ディスプレイ部の表示内容や、設定する項目を変更します。

◆ 詳しくは、「設定」（27ページ）をご覧ください。

## ポータブルダイバーシティーチューナー（受信機：URX-P1）

❶ アンテナa/b

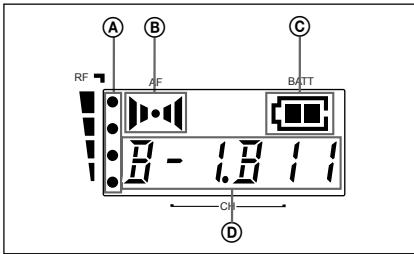
角度可変型アンテナです。

❷ MONITOR（モニター）端子（Φ3.5 mm ステレオミニジャック）

この端子にヘッドホンを接続して、音声出力をモニターします。

❸ RF（高周波入力）インジケーター

入力された高周波入力レベルによって、次のように点灯します。

緑色で点灯：入力レベルは15 dBμ*以上

消灯：入力レベルは15 dBμ*以下

* 0 dBμ＝1 μV<sub>EMF</sub>

❹ ディスプレイ部

Ⓐ RF（高周波入力）表示

高周波入力のレベルを表示します。入力レベルにより点灯するドット（●）の数が変わります。

Ⓑ AF（音声出力）表示

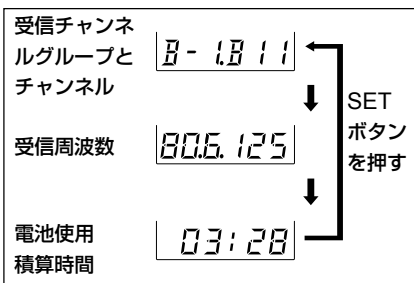
基準レベル以上の音声信号が出力されると表示されます。

Ⓒ BATT（バッテリー残量）表示

乾電池の残量を表示します。

◆ 詳しくは「乾電池残量の表示」（21ページ）をご覧ください。

Ⓓ CH（チャンネル）表示

受信チャンネルのグループとチャンネルを表示します。SETボタンを押すたびに、表示は受信チャンネルグループとチャンネル、受信周波数、電池使用時間の順に切り替わります。

◆ 詳しくは「設定」（27ページ）をご覧ください。

❺ ＋／－（設定値の増／減および電池の使用積算時間表示リセット）ボタン

＋または－ボタンを押して、ディスプレイ部に希望の設定値を表示させます。

電池の使用時間を表示している場合は、－ボタンを押すと、表示が「00：00」に戻ります。また、モニター音量の調節にも使用します。

❻ 電池ケース

単三型アルカリ乾電池2本を入れます。

◆ 電池の入れかについて詳しくは、「電源」（20ページ）をご覧ください。

❼ SET（設定）ボタン

このボタンを押して、ディスプレイ部の表示内容や設定する内容を変更します。

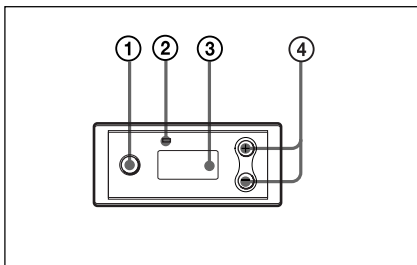
◆ 詳しくは、「設定」（27ページ）をご覧ください。

❽ POWER（電源）スイッチ

本機の電源をON/OFFします。

❾ OUTPUT（音声出力）端子
（Φ3.5 mm ステレオミニジャック）

付属のXLR-BMP変換ケーブルまたはステレオミニ-BMP変換ケーブルを接続し、カムコーダーまたはミキサー、アンプなどのマイクロホン入力端子に接続します。接続する機器のマイクロホン入力端子がステレオミニジャックの場合は、ストレート（BMP）プラグをチューナーに、L型（ステレオミニ）プラグを相手の機器のマイクロホン入力端子に接続してください。

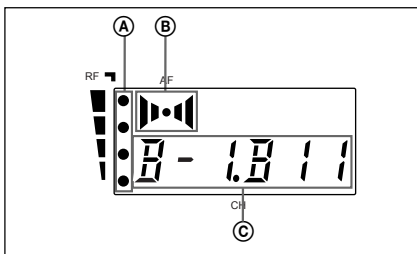
## ダイバーシティーチューナーモジュール（受信機：URX-M1）

### ❶ SET（設定）ボタン

このボタンを押して、ディスプレイ部の表示内容や設定する内容を変更します。

◆ 詳しくは、「設定」（27ページ）をご覧ください。

### ❷ RF（高周波入力）インジケーター

入力された高周波入力レベルによって、次のように点灯します。

緑色で点灯：入力レベルは25 dBμ*以上

消灯：入力レベルは25 dBμ*以下

### ❸ ディスプレイ部

### Ⓐ RF（高周波入力）表示

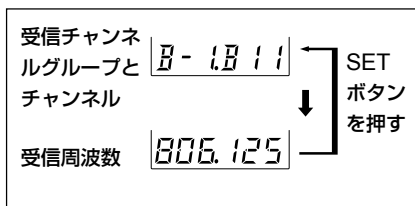
高周波入力のレベルを表示します。入力レベルにより点灯するドット（●）の数が変わります。

### Ⓑ AF（音声出力）表示

基準レベル以上の音声信号が出力されると表示されます。

### Ⓒ CH（チャンネル）表示

受信チャンネルのグループとチャンネルを表示します。SETボタンを押すたびに、表示は受信チャンネルグループとチャンネル、受信周波数の順に切り替わります。

◆ 詳しくは「設定」（27ページ）をご覧ください。

### ❹ ＋／－（設定値の増／減）ボタン

＋または－ボタンを押して、ディスプレイ部に希望の設定値を表示させます。

---

*　0 dBμ＝1 μVEMF

# 電源

ここでは各機器の電源について説明しています。

• **ダイバーシティーチューナーモジュール（URX-M1）**

電源は組み込み先の機器（MB-806、SRP-X700Pなど）から供給されます。

◆ ダイバーシティーチューナーモジュール（URX-M1）の電源について詳しくは、組み込み先機器の取扱説明書をご覧ください。

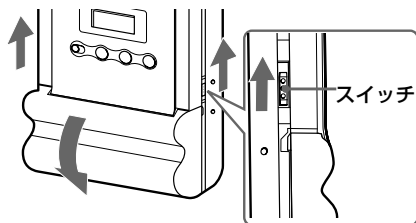
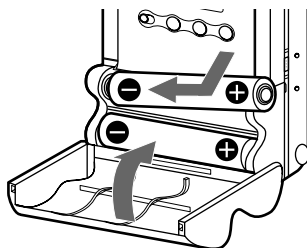
• **ボディーパックトランスミッター（UTX-B1）、ハンドヘルドマイクロホン（UTX-H1）とポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P1）**

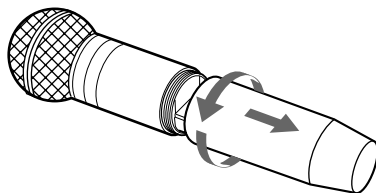
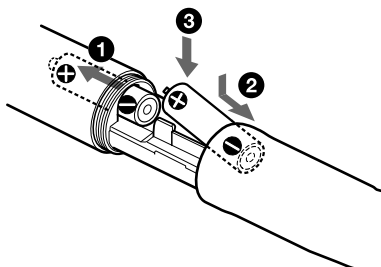
単3形アルカリ乾電池2本で連続約6時間動作します（使用温度25℃時）。各機器の電池の入れかたと、電池の残量表示について下記の項目で説明しています。

## 電池を入れる

### ボディーパックトランスミッター（UTX-B1）／ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P1）

下記手順はボディーパックトランスミッター（UTX-B1）のイラストを使って説明していますが、電池の入れかたはポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P1）も同様です。

**1** 側面両側のスイッチを同時に矢印の方向にスライドさせて、電池ケースのふたを開ける。

**2** 新しい単3形アルカリ乾電池2本の⊕と⊖を確認して入れ、ふたを閉める。

### ハンドヘルドマイクロホン（UTX-H1）

**1** マイクロホンのグリップを矢印の方向に回して、電池ケースを開ける。

**2** 新しい単3形アルカリ乾電池2本を、⊕と⊖が同じ向きになるように確認して入れる。

**3** グリップを手順1の矢印の反対方向に回して電池ケースを閉める。

**ご注意**

ハンドヘルドマイクロホン（UTX-H1）の送信中に、グリップの開閉を行うと雑音が発生します。グリップの開け閉めは、電源OFFの状態で行ってください。

## 乾電池残量の表示

POWERスイッチをONにすると、ディスプレイ部に本機の乾電池の残量が表示されます。

下記の表の4の表示が点滅し始めたら、直ちに乾電池を2本とも新しいものと交換してください。新しい乾電池は、記載されている使用推奨期限を確認の上使用してください。

| | 1 | 2 | 3 | 4 |
|---|---|---|---|---|
| **BATT表示** | 点灯 | 点灯 | 点灯 | 点滅 |
| **乾電池の状態** | 良好 | 残量50％以下 | 残量20％以下 | ほとんど消耗している |

**ご注意**

交換した乾電池が新しくない場合は、乾電池の残量が正しく表示されない場合があります。長時間続けてお使いになるときは、新しい乾電池と交換することをおすすめいたします。

## 乾電池についてのご注意

乾電池の使い方を誤ると、液漏れや破裂のおそれがあります。次のことを必ず守ってください。

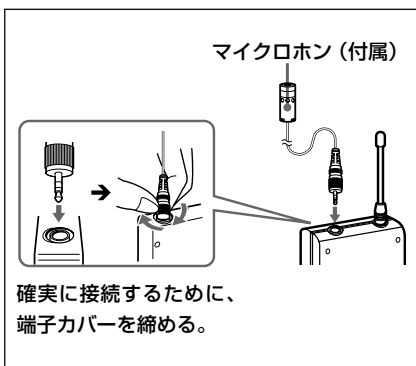
- ⊕と⊖の向きを正しく入れてください。
- 電池を交換するときには、必ず2本とも新しい乾電池と交換してください。
- 新しい乾電池と使用した乾電池、または種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 乾電池は充電できません。
- 本機を長時間使わないときは、乾電池を取り出しておいてください。万一、液漏れが起こったときは、電池ケースや本体についた液をよくふき取ってから、新しい乾電池を入れてください。または、ソニーのサービス窓口にお持ちください。

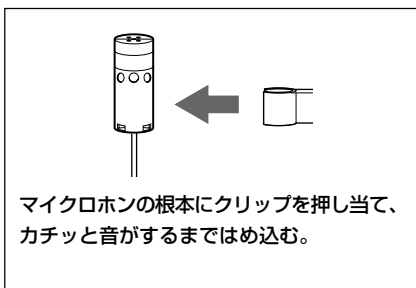
# 取り付けと組み込み

ここでは各機器への付属品の取り付けかたと、ダイバーシティーチューナーモジュールのチューナーベースユニットMB-806とパワードミキサーSRP-X700Pへの組み込みかたについて説明しています。

## ボディーパックトランスミッター（UTX-B1）への付属品取り付け

### マイクロホンを接続する

確実に接続するために、端子カバーを締める。

### マイクロホンにホルダークリップを取り付ける

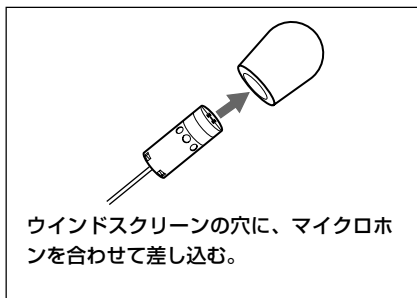
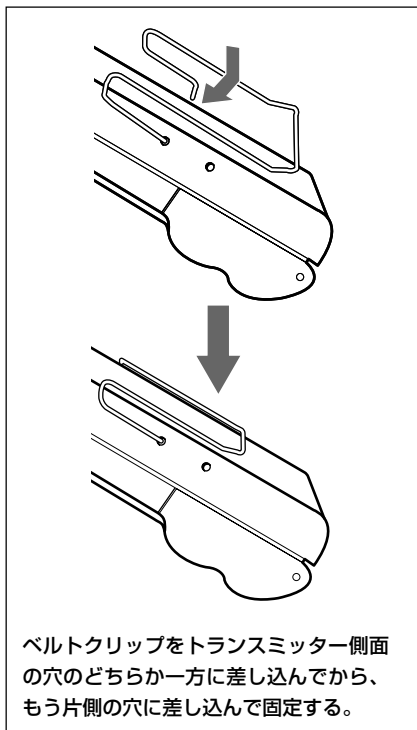
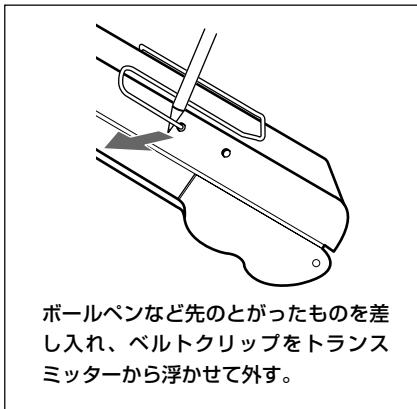
マイクロホンの根本にクリップを押し当て、カチッと音がするまではめ込む。

### マイクロホンにウインドスクリーンを取り付ける

ウインドスクリーンの穴に、マイクロホンを合わせて差し込む。

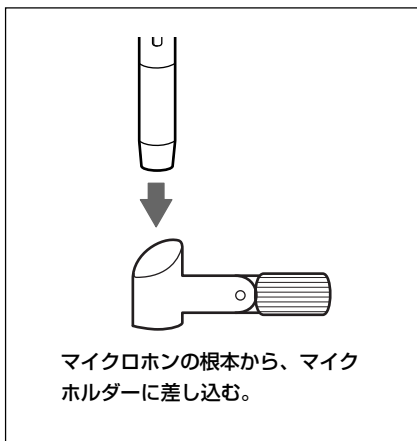
### ベルトクリップを取り付ける

ベルトクリップをトランスミッター側面の穴のどちらか一方に差し込んでから、もう片側の穴に差し込んで固定する。

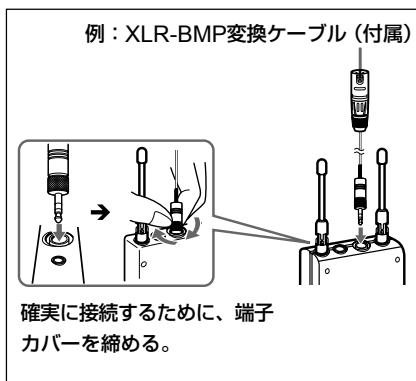
### ベルトクリップを外すときは

ボールペンなど先のとがったものを差し入れ、ベルトクリップをトランスミッターから浮かせて外す。

## ハンドヘルドマイクロホン（UTX-H1）への付属品取り付け

### マイクホルダーを取り付ける

マイクロホンの根本から、マイクホルダーに差し込む。

## ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P1）への付属品取り付け

### OUTPUT端子に付属の変換ケーブルを接続する

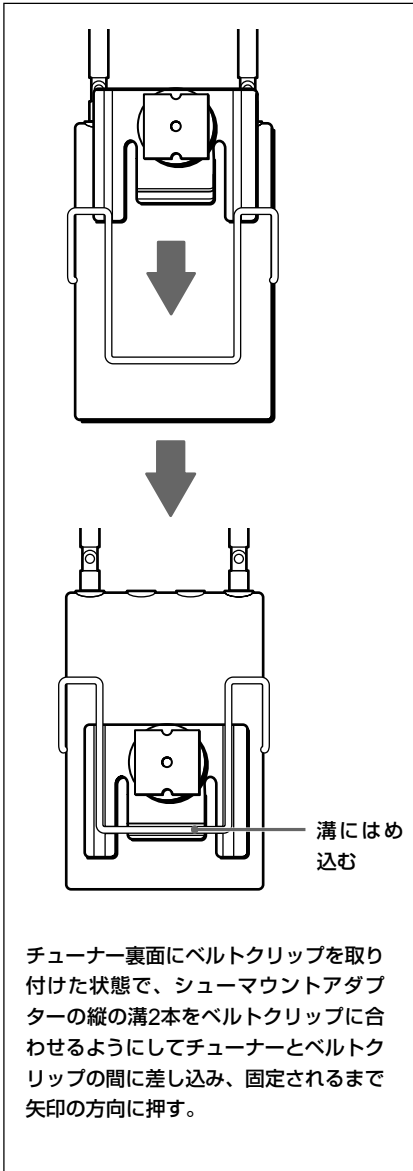
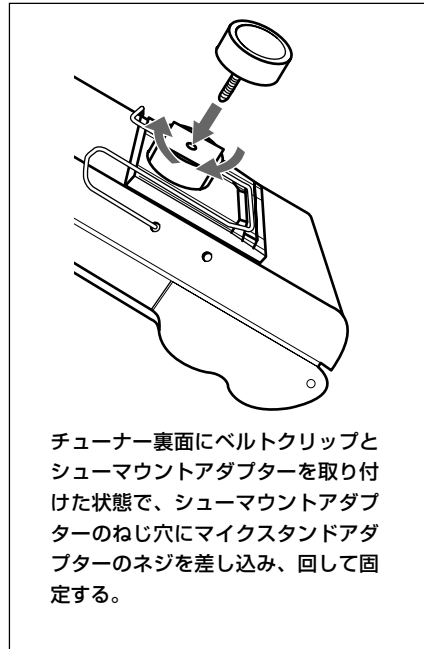
確実に接続するために、端子カバーを締める。

### ベルトクリップを取り付ける

◆「ベルトクリップを取り付ける」（22ページ）を参照してください。

## シューマウントアダプターを取り付ける

チューナー裏面にベルトクリップを取り付けた状態で、シューマウントアダプターの縦の溝2本をベルトクリップに合わせるようにしてチューナーとベルトクリップの間に差し込み、固定されるまで矢印の方向に押す。

## マイクスタンドアダプターを取り付ける

チューナー裏面にベルトクリップとシューマウントアダプターを取り付けた状態で、シューマウントアダプターのねじ穴にマイクスタンドアダプターのネジを差し込み、回して固定する。

## ダイバーシティーチューナーモジュール（URX-M1）の組み込み

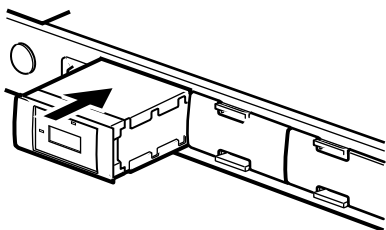
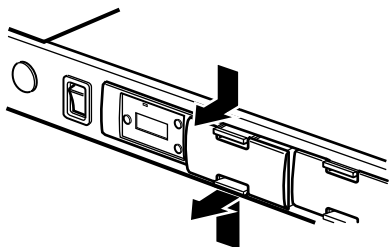
**ご注意**

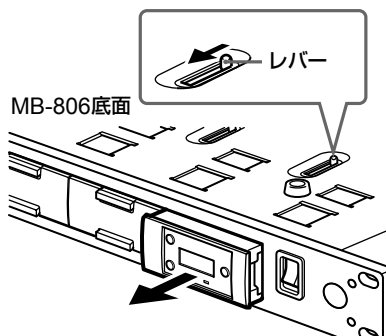
• 必ず組み込み先の機器の電源をOFFにしてからチューナーモジュールを組み込んでください。電源がONのときはチューナーモジュールの組み込み・取り外しは絶対に行わないでください。ノイズや、コネクター不良の原因となります。
• ダイバーシティーチューナーモジュール（URX-M1）前面のボタンや表示部を強く押すとこわれることがあります。必ずチューナーモジュールの側面を持ってください。

- チューナーモジュール後面の端子部や、チューナースロット内部に手を触れないでください。
- 静電気にご注意ください。

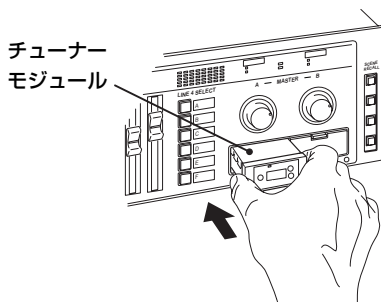
## チューナーユニットMB-806に組み込む

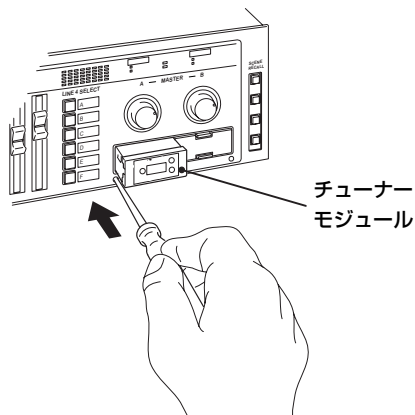
MB-806には、ダイバーシティーチューナーモジュール（URX-M1）を6台まで組み込むことができます。

**1** チューナーモジュールの側面を持ってスロットに入れ、カチッと音がするところまで押し込む。

**2** 2台以上のチューナーモジュールを取り付けるときは、ブランクパネルの上下タブを押してブランクパネルを外し、1台ずつ上記の手順1を行う。

### チューナーモジュールの取り外しかた

MB-806底面の、チューナーモジュールを取り付けたスロットに対応するレバーを手前に引くと、チューナーモジュールがスロットから出てきます。

## パワードミキサーSRP-X700Pに組み込む

SRP-X700Pには、ダイバーシティーチューナーモジュール（URX-M1）を2台まで組み込むことができます。

**1** SRP-X700Pのチューナーカバーを外し、チューナーモジュールの上下を確認してから、チューナーモジュールの側面を持ってスロットに入れ、押し込む。

### チューナーモジュールの取り外しかた

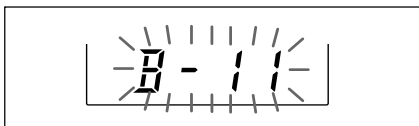
SRP-X700Pのチューナースロット下方の穴にシャフト径2～4mm以内、シャフト長30mm以上のドライバーを差し込み、チューナーモジュールを取り出します。

## 送信チャンネルを設定する

**この操作の対象：UWPシリーズのすべての送信機（UTX-B1/H1）**

選択可能なチャンネルグループとチャンネルについては、「チャンネルプラン」（14ページ）を参照してください。

**1** SETボタンを押したままで、POWERスイッチをONにする。

電源を切る前に表示されていた設定内容がディスプレイ部で点滅するまで、SETボタンを押したままにしてください。

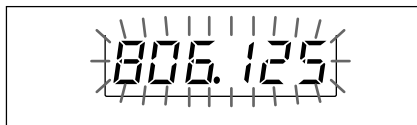
**2** SETボタンを繰り返し押して、チャンネル番号を点滅させる。

**3** ＋または－ボタンを押して、希望のチャンネル番号を表示させる。

**4** POWERスイッチをOFFにしていったん設定を終了するか、SETボタンを押して別の項目を表示して設定を続ける。

設定内容は、電源を入れ直したときに反映されます。

### 周波数を表示させてチャンネルを選択するには

**1** SETボタンを押したままで、POWERスイッチをONにする。

**2** SETボタンを繰り返し押して、周波数表示を点滅させる。

**3** ＋または－ボタンを押して、希望の周波数を選択する。

**4** POWERスイッチをOFFにしていったん設定を終了するか、SETボタンを押して別の項目を表示して設定を続ける。

**ご注意**

- 送信チャンネル設定中には、送信はできません。
- 設定中には、電池を抜かないでください。抜けてしまった場合は、電池を入れ直し、設定の手順を最初から行ってください。
- 同一システム内の送信機と受信機は同じチャンネルに設定してください。
- 設定後に、電源を切った直後に電源を入れると、正しく動作しないことがあります。数秒経ってから、電源を入れてください。

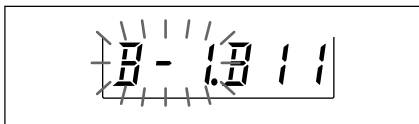
## 受信チャンネルを設定する

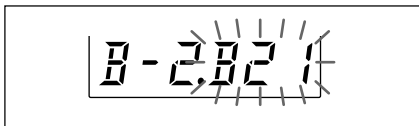
**この操作の対象：UWPシリーズのすべての受信機（URX-P1/M1）**

選択可能なチャンネルグループとチャンネルについては、「チャンネルプラン」（14ページ）を参照してください。

**1** SETボタンを1秒以上押したままにする。

設定内容がディスプレイ部で点滅するまで、SETボタンを押したままにしてください。

**2** SETボタンを繰り返し押して、チャンネルグループ表示を点滅させる。

**3** ＋または－ボタンを押して、希望のグループ名を選択し、SET ボタンを押す。

チャンネルグループが設定され、チャンネル番号表示が点滅します。

**ご注意**

10秒間どのボタンも押さないと、表示の点滅が止まり、その時点での設定内容が記憶されます。この動作は、他の項目を設定する場合も同じです。

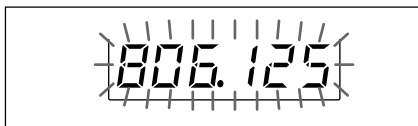
**4** ＋または－ボタンを押して、希望のチャンネル番号を表示させる。

希望のチャンネル番号が表示されたら、どのボタンも押さずにそのまま放置します。約10秒間後に表示の点滅が止まり、表示されているチャンネルが確定します。

### 周波数を表示させてチャンネルを選択するには

**1** SETボタンを1秒以上押したままにする。

設定内容がディスプレイ部で点滅するまで、SETボタンを押したままにしてください。

**2** SETボタンを繰り返し押して、周波数表示を点滅させる。

**3** ＋または－ボタンを押して、希望の周波数を選択する。

希望の周波数が表示されたら、どのボタンも押さずにそのまま放置します。約10秒間後に表示の点滅が止まり、表示されている周波数が確定します。

**ご注意**

- 受信チャンネル設定中でも、受信はできます。

- 設定中には、電池を抜かないでください。抜けてしまった場合は、電池を入れ直し、設定の手順を最初から行ってください。
- 同一システム内の送信機と受信機は同じチャンネルに設定してください。
- 設定後に、電源を切った直後に電源を入れると、正しく動作しないことがあります。数秒経ってから、電源を入れてください。

## 空きチャンネルを自動設定する（ダイバーシティーチューナーモジュール（URX-M1）のみ）

ダイバーシティーチューナーモジュール（URX-M1）をMB-806に組み込んで多チャンネル同時運用を行う場合、スロット1に挿入したチューナーモジュールに対してチャンネルグループ設定を行うと、他のチューナーモジュールを自動的に同じグループの異なるチャンネルに設定することができます。

**1** マイクロホンおよびトランスミッターの電源をすべてオフにする。

**2** スロット1のチューナーモジュールで、使用するチャンネルグループを設定する。

**3** チャンネルグループ表示が点滅から点灯に変わったの確認してから（設定から約10秒後）、スロット1のチューナーモジュールの＋ボタンを3秒以上押したままにする。

MB-806に組み込まれたすべてのチューナーモジュールが、同じグループの異なるチャンネルに自動的に設定されます。
自動設定後、各チューナーモジュールのグループ及びチャンネルを、手動で変更することもできます。

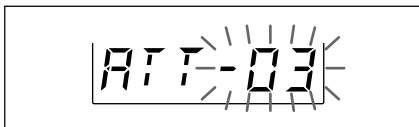
**ご注意**

- 空きチャンネルの自動設定は、チャンネルグループ00以外で行ってください。
- 外来電波などの影響で運用できないチャンネルがあった場合、チャンネルの設定ができなかったチューナーモジュールのディスプレイ部に「NO CH」と表示されます。この場合は、外来電波のない別のチャンネルグループを選択して、上記の手順を再度行ってください。

## 音声入力のアッテネーターレベルを設定する

**この操作の対象：UWPシリーズのすべての送信機（UTX-B1/H1）**

音声入力のアッテネーターレベルは、送信中でも設定できます。

**1** **送信していないとき**
SETボタンを押したままで、POWERスイッチをONにし、SETボタンを繰り返し押してアッテネーターレベル表示を点滅させる。

**送信しているとき**

SETボタンを繰り返し押してアッテネーターレベルを表示させる。

**2** ＋または－ボタンを押して、希望のアッテネーターレベルを表示させる。

設定できる範囲は0 dB～21 dB（3 dBステップ）で、初期値は0 dBです。

**3** **送信していないとき**

POWERスイッチをいったんOFFにして設定を終了するか、SETボタンを押して別の項目を表示して設定を続ける。

設定内容は、電源を入れ直したときに反映されます。

## 使用積算時間をリセットする

**この操作の対象：UWPシリーズのすべての送信機（UTX-B1/H1）およびポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P1）**

使用時間の表示は、本機の電源が入っている時間の合計を時間と分で表示します。乾電池を交換したときに表示を「00:00」に戻しておくと、乾電池の積算使用時間がわかって便利です。

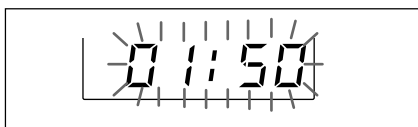
**1-a 送信機の場合**

SETボタンを押したままで、POWERスイッチをONにする。

**1-b ポータブルダイバーシティーチューナーの場合**

SETボタンを1秒以上押したままにする。

設定内容がディスプレイ部で点滅するまで、SETボタンを押したままにしてください。

**2** SETボタンを繰り返し押して、使用積算時間表示を点滅させる。

**3** －ボタンを押す。

表示は「00:00」に戻ります。「00：00」が点滅している間に＋ボタンを押すと、手順2で表示していた値に戻ります。

**4-a 送信機の場合**

POWERスイッチをいったんOFFにして設定を終了するか、SETボタンを押して別の項目を表示して設定を続ける。

設定内容は、電源を入れ直したときに反映されます。

**4-b ポータブルダイバーシティーチューナーの場合**

どのボタンも押さずにそのまま放置する。

約10秒間後に表示の点滅が止まり、表示されている設定が確定します。

**4** POWERスイッチをいったんOFFにして設定を終了するか、SETボタンを押して別の項目を表示して設定を続ける。

設定内容は、電源を入れ直したときに反映されます。

## アンテナ出力のレベルを設定する

**この操作の対象：UWPシリーズのすべての送信機（UTX-B1/H1）**

アンテナ出力のレベルを、H（10 mW）またはL（2 mW）のいずれかに設定できます。複数のチャンネルを同時に運用するときはLに、広い空間で使用するときにはHに設定します。

**1** SETボタンを押したままで、POWERスイッチをONにする。

**2** SETボタンを繰り返し押して、アンテナ出力のレベル表示を点滅させる。

**3** ＋または－ボタンを押して、希望のアンテナ出力レベルを表示させる。

Hを選択するときは＋ボタンを、Lを選択するときは－ボタンをそれぞれ押します。

## モニター音量を調節する（ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P1）のみ）

モニター音量は、01～24の範囲で設定できます。

**1** 通常の表示（ディスプレイ部が点滅していない）状態のときに、＋または－ボタンを押す。

モニター音量のレベルが表示されます。

**2** ＋または－ボタンを押して、希望のモニター音量レベルを表示させる。

2秒以上そのまま放置すると、その時点での設定値が記憶され、ディスプレイ部の表示は設定する前の状態に戻ります。設定値は、電源を切っても保持されます。

# 操作

**この操作の対象：UWPシリーズのすべての機器（UTX-B1/H1およびURX-P1/M1）**

**1** 必要に応じて、受信機の接続をする。

◆ 接続例について詳しくは、「システム構成例」（33ページ）をご覧ください。

**2** 送信機の送信チャンネルを設定し、いったん電源を切る。

◆ 送信チャンネルの設定について詳しくは、「送信チャンネルを設定する」（27ページ）をご覧ください。

**3** 受信機のPOWERスイッチをONにして電源を入れる。

前回使用時に電源を切る前に表示されていた内容がディスプレイ部に表示されます。

**ご注意**

電源をONにするとノイズが発生しますので、受信機 に接続した機器の入力をしぼってから電源を入れてください。

**4** 受信機の受信チャンネルを設定する。

◆ 受信チャンネルの設定について詳しくは、「受信チャンネルを設定する」（28ページ）をご覧ください。

**5** 送信機の電源を入れる。

## 雑音が発生するときは

設置場所によっては、外来雑音や妨害電波などの影響で雑音が発生し、使用できないチャンネルが生じることがあります。
このような場合は、使用チャンネルを設定するときに、送信機の電源をOFFにしたまま受信機のチャンネルを切り換え、RFインジケーター（またはディスプレイ部のRF表示）が点灯していないチャンネル（雑音や妨害電波の影響を受けていないチャンネル）を選択して使用してください。送信機も同じチャンネルに設定してください。

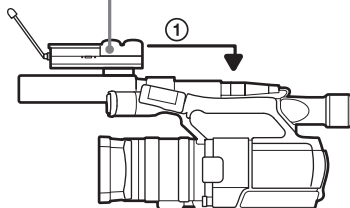
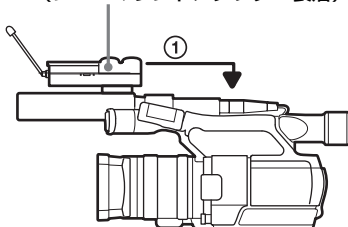
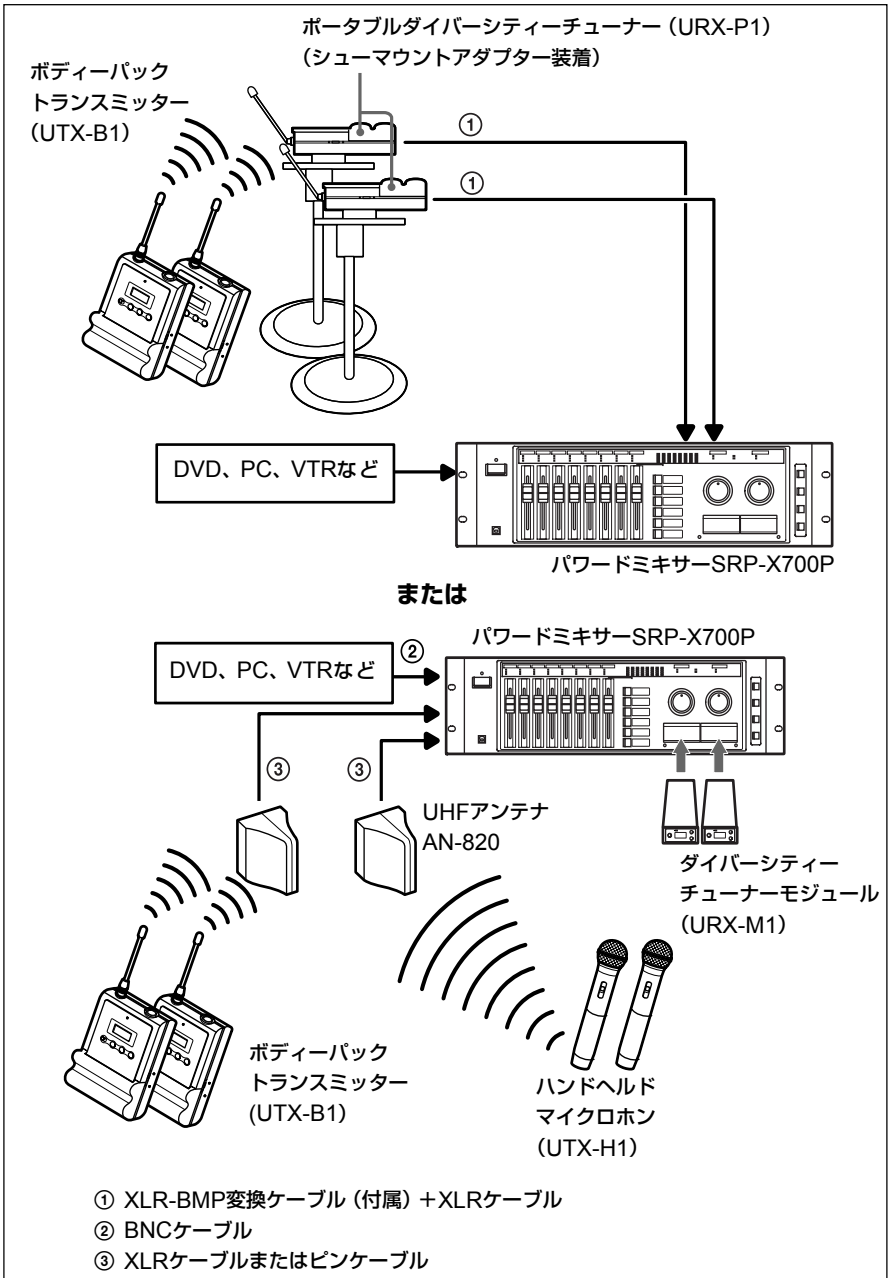
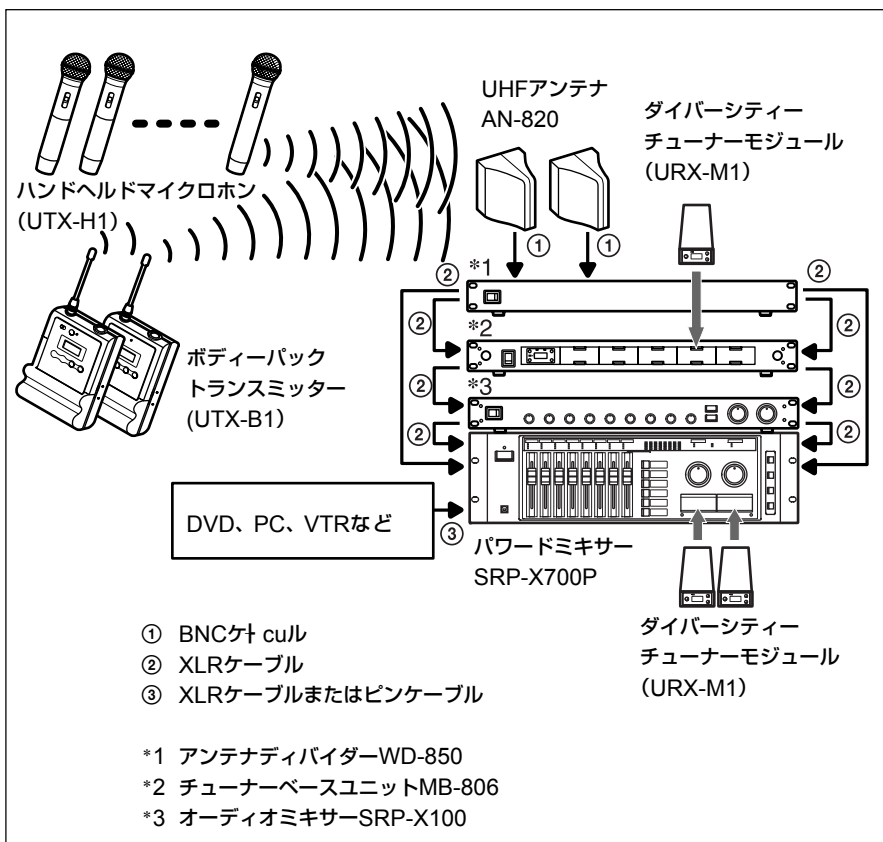
**ご注意**

混信や雑音を防ぐため、次の点に注意してください。

- 同じチャンネルに設定した送信機を同時に2本以上使わないでください。
- UWPシリーズを同時に2組以上使用する場合は同一グループ内の互いに異なるチャンネルにそれぞれ設定してください。
- 送信機と受信機のアンテナは、互いに3m以上離して使うことをおすすめします。
- 2組以上のUWPシリーズで同一のチャンネルグループを使用する場合は、仕切りや障害物がなく見通せる広い空間では、システム間の距離を100m以上離してください。（距離は使用環境により異なります。）

# システム構成例

以下のシステム構成は、UWPシリーズの使用例です。

## ENG（Electric News Gathering）またはEFP（Electronic Field Production）での使用例（デジタルカムコーダーとの組み合わせ）

AVプレゼンテーションでの使用例

PAシステムでの使用例

# エラーメッセージ

ディスプレイ部には、通常表示の他に次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。

| 表示 | 意味 | 対応 |
|---|---|---|
| Err 01 | バックアップメモリーデータにエラーが発生しました。 | ソニーのサービス窓口にお持ちください。 |
| Err 02 | PLLシンセサイザー回路に異常があります。 | 電源を入れ直してみてください。それでも直らないときは、ソニーのサービス窓口にお持ちください。 |
| Err 03* | 電源電圧が許容値を超えています。 | 指定の電池をお使いください。 |

* ボディーパックトランスミッター（UTX-B1）／ハンドヘルドマイクロホン（UTX-H1）／ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P1）のみ

# 故障かなと思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

| 症状 | 原因 | 対策 |
|---|---|---|
| 電源が入らない。* | 電池の⊕と⊖が逆になっている。 | 正しい方向に入れ直してください。 |
| | 電池が消耗している。 | 新しい電池に交換してください。 |
| | 電池端子が汚れている。 | ⊕端子、⊖端子を綿棒でクリーニングしてください。 |
| 電池がすぐになくなる。* | 電池が消耗している。 | 新しい電池に交換してください。 |
| | マンガン電池を使用している。 | マンガン乾電池の持続時間はアルカリ乾電池に比較して半分以下になりますので、アルカリ乾電池を使用してください。 |
| | 寒い環境で使用している。 | 低温時は、電池寿命が短くなります。 |
| チャンネルの変更ができない。 | 設定モードに入っていない。 | SETボタンを押しながら電源を入れて、ディスプレイ部のチャンネル表示を点滅させてから、＋／－ボタンで変更してください。 |
| 音が出ない。 | 送信機と受信機のチャンネルが違っている。 | 送信機と受信機のチャンネルを合わせてください。 |
| | 受信機のRFインジケーターが点灯しない。 | 送信機と受信機の電源を確認してください。 |

* ボディーパックトランスミッター（UTX-B1）／ハンドヘルドマイクロホン（UTX-H1）／ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P1）のみ

| 症状 | 原因 | 対策 |
|---|---|---|
| 音が小さい。 | 送信機のアッテネーターの設定値が大きい。 | 出力レベルが小さくなっています。送信機のアッテネーターを適正量に設定してください。 |
| | アンプ、ミキサーのボリュームが下がっている。 | ボリュームを上げて適正音量にしてください。 |
| 音が歪む。 | 送信機のアッテネーターの設定値が小さい。または0である。 | 音量が過大入力です。音が歪まないように送信機のアッテネーターを設定してください。 |
| | 送信機と受信機のチャンネルが違っている。 | 送信機と受信機のチャンネルを合わせてください。 |
| 音切れ、ノイズが発生する。 | 送信機の電源を切っても、受信機のRFインジケーターが点灯している。 | 妨害電波が出ています。まず、受信機をRFインジケーターが点灯していないチャンネルに設定し、次に、送信機を同じチャンネルに設定してください。2本以上のマイクを使用している場合は、妨害電波のない他のグループに変更してください。 |
| | 送信機と受信機のチャンネルが違っている。 | 送信機と受信機のチャンネルを合わせてください。 |
| | 2本以上の送信機が同じチャンネルになっている。 | 同一チャンネルで2本以上の送信機は使用できません。「チャンネルプラン」（14ページ）に従って各マイクのチャンネルを設定し直してください。 |
| | チャンネルが同一グループ内の設定になっていない | 本機のチャンネルプランは、2本以上の送信機を使用する場合、それぞれの送信機が混信しないように設定してあります。使用する送信機を同一グループ内のチャンネルに設定し直してください。 |

# 主な仕様

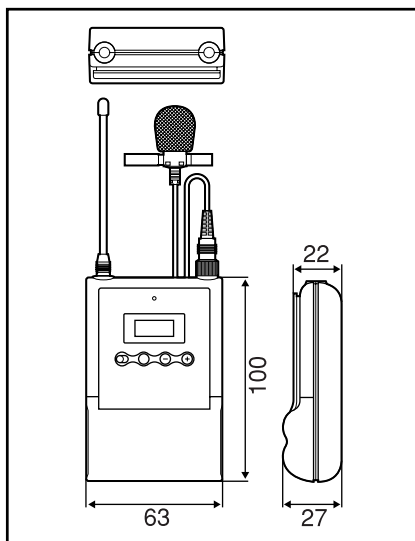
## 送信機（UTX-B1/H1）

### 送信機共通

| | |
|---|---|
| 局部発振 | 水晶制御PLLシンセサイザー |
| 搬送波周波数 | 806 MHz～810 MHz |
| 周波数帯域 | 4 MHz BW |
| RF出力レベル | 10 mW／2 mW（選択可） |
| プリエンファシス | 50μs |
| 基準偏差 | ±5 kHz |
| 周波数特性 | 50 Hz～15 kHz |
| ひずみ率 | 1.0％未満 |
| S/N比 | 60 dB以上 |
| トーン信号周波数 | 32 kHz |
| アッテネーター | 0～21 dB（3 dBステップ） |
| ディスプレイ部 | チャンネル、周波数、音声レベル、RFレベル、使用積算時間 |
| インジケーター | 通電 |
| 電源電圧 | 3.0 V DC（単三型アルカリ乾電池2本） |
| 電池寿命 | 約6時間 |

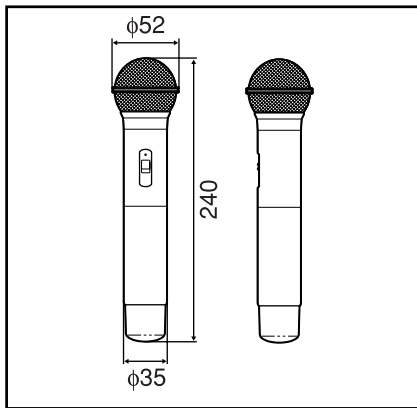
### ボディーパックトランスミッター（UTX-B1）

| | |
|---|---|
| アンテナ | 波長1/4 λワイヤーアンテナ |
| 音声入力端子 | φ3.5 mmミニジャック |
| 音声入力レベル | －60 dBV～－39 dBV |

外形図

| | |
|---|---|
| 寸法 | 63×100×27 mm（幅／高さ／奥行き）（アンテナ含まず） |
| 重量 | 140 g（乾電池含む） |

### ハンドヘルドマイクロホン（UTX-H1）

| | |
|---|---|
| マイクロホンユニット | |
| | ダイナミック |
| 指向特性 | 単一指向 |
| アンテナ | 波長1/4 λワイヤーアンテナ（内蔵） |

外形図

| | |
|---|---|
| 寸法 | φ 52×240 mm（直径／長さ） |
| 重量 | 300 g（乾電池含む） |

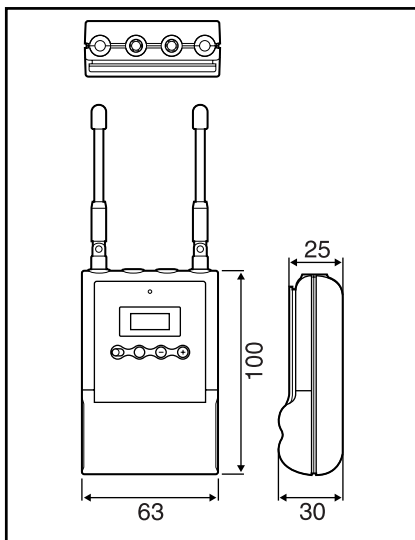
## 受信機（URX-P1/M1）

### 受信機共通

| | |
|---|---|
| 受信方式 | スペースダイバーシティー方式 |
| 局部発振 | 水晶制御PLLシンセサイザー |
| 受信周波数 | 806 MHz～810 MHz |
| 周波数帯域 | 4 MHz BW |
| S/N比 | 60 dB以上 |
| ディエンファシス | 50μs |
| 基準偏差 | ±5 kHz |
| 周波数特性 | 50 Hz～15 kHz |
| ひずみ率 | 1.0％未満（1kHz変調） |
| トーン信号 | 32 kHz |
| インジケーター | RF 入力レベル |

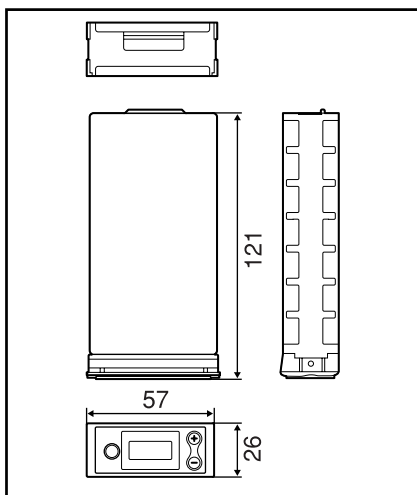
### ポータブルダイバーシティーチューナー（URX-P1）

| | |
|---|---|
| アンテナ | 波長1/4 λワイヤーアンテナ（角度調節可） |
| スケルチレベル | 15 dBμ |
| 音声出力レベル | －58 dBm |
| 音声出力端子 | φ 3.5 mmミニジャック |
| ヘッドホン出力レベル | 5 mW（16 Ω） |
| ディスプレイ部 | チャンネル、周波数、音声レベル、RFレベル、使用積算時間、モニターレベル |
| 電源電圧 | 3.0 V DC（単三型アルカリ乾電池2本） |
| 電池寿命 | 約6時間 |

外形図

| | |
|---|---|
| 寸法 | 63×100×30 mm<br>（幅／高さ／奥行き）<br>（アンテナ含まず） |
| 重量 | 180 g（乾電池含む） |

## ダイバーシティーチューナーモジュール（URX-M1）

| | |
|---|---|
| スケルチレベル | 25 dBμ |
| ディスプレイ部 | チャンネル、周波数 |

外形図

| | |
|---|---|
| 寸法 | 57×26×121 mm<br>（幅／高さ／奥行き） |
| 重量 | 150 g |

仕様および外観は、改良のため予告なく変更する場合がありますがご了承ください。

# 保証書とアフターサービス

## 保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定の事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。

## アフターサービス

**調子が悪いときはまずチェックを**

この説明書をもう一度ご覧になってお調べください。

**それでも具合が悪いときは**

お買い上げ店、または添付の「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にあるお近くのソニーサービス窓口にご相談ください。

**保証期間中の修理は**

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

**保証期間経過後の修理は**

修理によって機能が維持できる場合、ご要望により有料修理させていただきます。

保証期間中の修理など、アフターサービスについてご不明な点は、お近くのソニー営業所にお問い合わせください。

お問い合わせは
「ソニー業務用製品ご相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社 〒108-0075　東京都港区港南1-7-1

http://www.sony.co.jp/

Printed in Korea